

令和6年8月14日

マイコプラズマ肺炎の増加について

1 概要

感染症発生動向調査事業に基づく11基幹定点医療機関からの患者数の報告で、**県内の定点あたりのマイコプラズマ肺炎の患者数が、第32週（8/5～8/11）に、「1.82」となり、過去最高（2.0）に迫っています。**

また、大分県で独自に集計しているデータ*でも定点あたりの患者数が、「3.58」となり、過去最高をすでに更新しています。

マイコプラズマ肺炎が流行していると考えられますので、手洗いの励行、場面に応じたマスク着用、早めの受診などの対策をお願いします。

*大分県では国の感染症発生動向調査事業とは別に、独自に小児科定点医療機関からも毎週患者数の報告をもらっています。

2 発生状況

別紙「大分県のマイコプラズマ肺炎発生状況」のとおり

3 感染症発生動向調査事業について

マイコプラズマ肺炎は、県内11カ所の基幹定点医療機関から毎週報告があります。また、大分県独自集計として、県内36カ所の小児科定点医療機関からも毎週報告があります。

4 予防方法等

別紙「マイコプラズマ肺炎に注意しましょう」参照

【問合せ先】

大分県福祉保健部健康政策・感染症対策課
感染症対策班 和氣、小野
電話：097-506-2863、2665

大分県のマイコプラズマ肺炎(基幹定点)発生状況

週別マイコプラズマ肺炎患者数(大分県、全国)

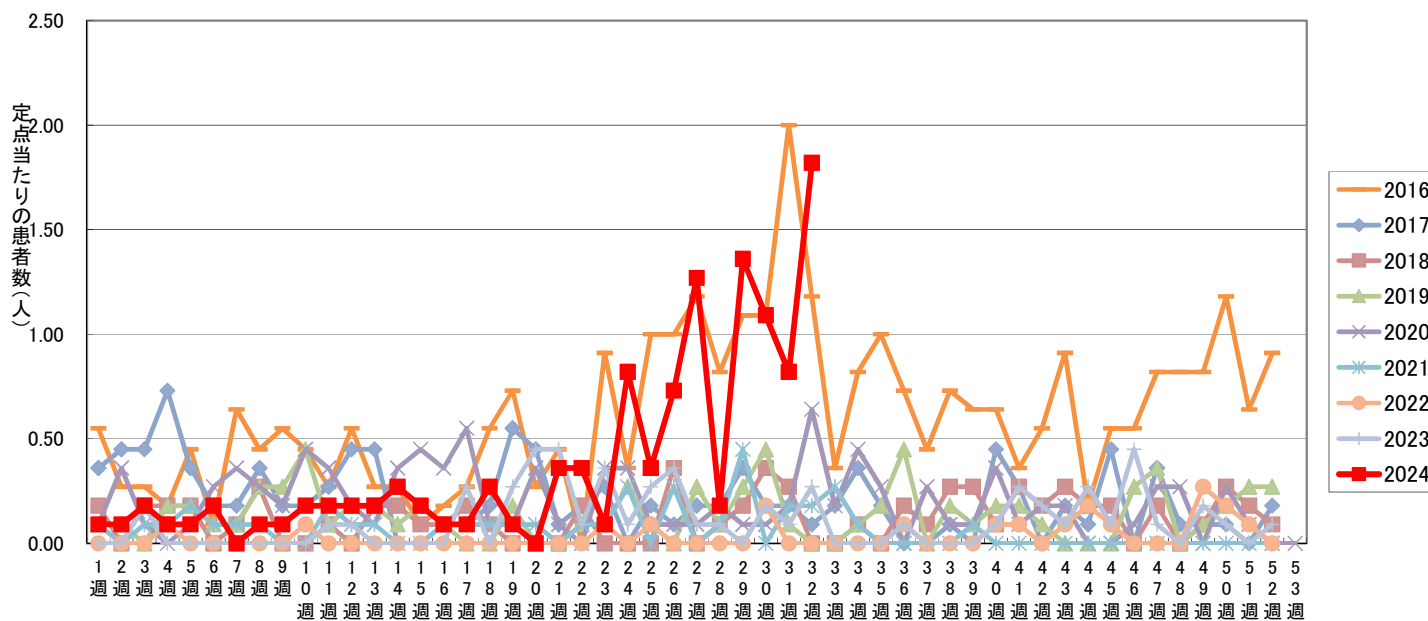
			大分県(定点11カ所)		全国	
			患者数	定点当たり	患者数	定点当たり
2024年	21週	5/20 ~ 5/26	4	0.36	137	0.28
	22週	5/27 ~ 6/2	4	0.36	112	0.23
	23週	6/3 ~ 6/9	1	0.09	120	0.25
	24週	6/10 ~ 6/16	9	0.82	153	0.32
	25週	6/17 ~ 6/23	4	0.36	192	0.40
	26週	6/24 ~ 6/30	8	0.73	187	0.39
	27週	7/1 ~ 7/7	14	1.27	235	0.49
	28週	7/8 ~ 7/14	2	0.18	315	0.65
	29週	7/15 ~ 7/21	15	1.36	339	0.70
	30週	7/22 ~ 7/28	12	1.09	374	0.78
	31週	7/29 ~ 8/4	9	0.82	457	0.95
	32週	8/5 ~ 8/11	20	1.82		

大分県感染症発生動向調査事業

保健所別の状況

	32週	患者数	定点当たり
総数		20	1.82
東部		2	1.00
中部		0	0.00
南部		0	0.00
豊肥		0	0.00
西部		5	5.00
北部		13	6.50
大分市		0	0.00

大分県のマイコプラズマ肺炎(基幹定点)発生状況



大分県のマイコプラズマ肺炎(小児科定点)発生状況

週別マイコプラズマ肺炎患者数(大分県)

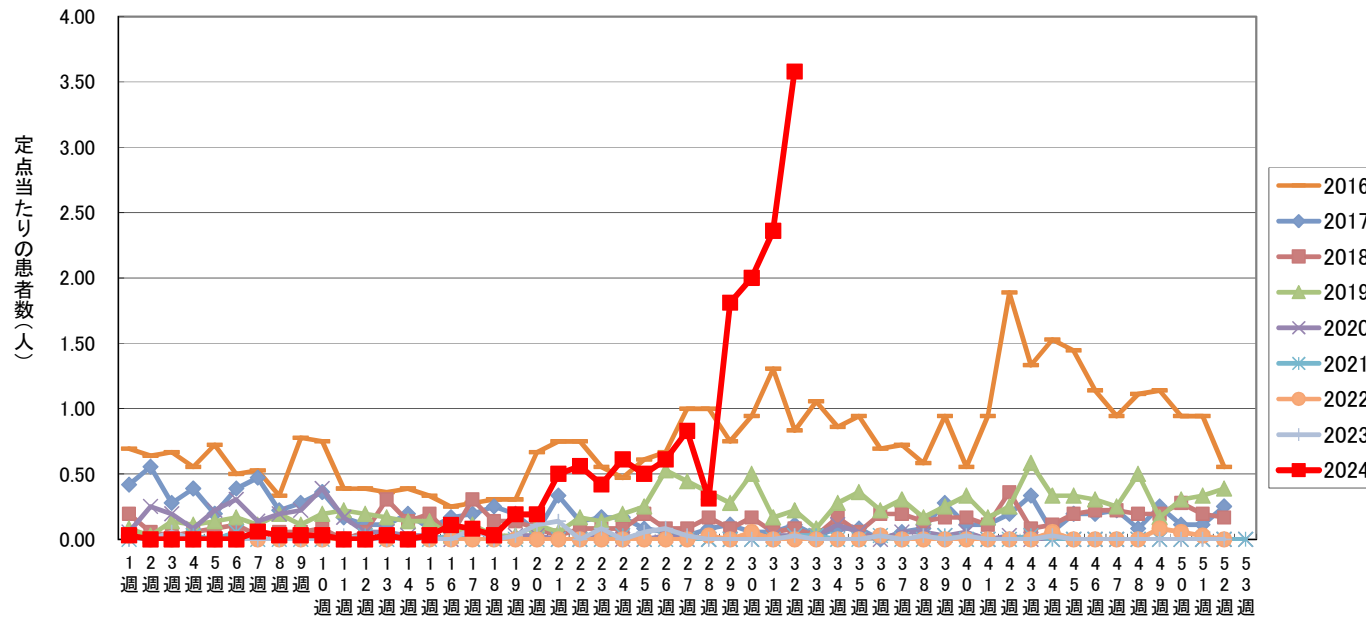
			大分県(定点36カ所)	
			患者数	定点当たり
2024年	21週	5/20 ~ 5/26	18	0.50
	22週	5/27 ~ 6/2	20	0.56
	23週	6/3 ~ 6/9	15	0.42
	24週	6/10 ~ 6/16	22	0.61
	25週	6/17 ~ 6/23	18	0.50
	26週	6/24 ~ 6/30	22	0.61
	27週	7/1 ~ 7/7	30	0.83
	28週	7/8 ~ 7/14	11	0.31
	29週	7/15 ~ 7/21	65	1.81
	30週	7/22 ~ 7/28	72	2.00
	31週	7/29 ~ 8/4	85	2.36
	32週	8/5 ~ 8/11	129	3.58

大分県感染症発生動向調査事業

保健所別の状況

32週	患者数	定点当たり
総数	129	3.58
東部	37	5.29
中部	0	0.00
南部	1	0.33
豊肥	0	0.00
西部	6	2.00
北部	12	2.00
大分市	73	6.64

大分県のマイコプラズマ肺炎(小児科定点)発生状況



マイコプラズマ肺炎に注意しましょう

【マイコプラズマ肺炎とは】

マイコプラズマ肺炎は、「Mycoplasma pneumoniae」という細菌に感染することによって起こる呼吸器感染症です。6～12歳の小児の報告が多く、小児では発生頻度の高い感染症ですが、成人の報告もみられます。

【症状】

発熱や全身倦怠感、頭痛、痰を伴わない咳などの症状がみられ、咳は熱が下がった後も長期にわたって（3～4週間）続くのが特徴です。多くの人はマイコプラズマに感染しても気管支炎ですみ、軽い症状が続きますが、一部の人は肺炎となり、重症化することもあります。

【感染経路】

患者の咳のしぶきを吸い込んだり（飛沫感染）、患者と身近で接触したりすること（接触感染）により感染します。家庭のほか、学校や保育施設などの施設内でも感染の伝播がみられます。感染してから発症するまでの潜伏期間は2～3週間くらいとされています。

【治療】

抗菌薬（抗生物質）によって治療します。

【予防のポイント】

手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用が大切です。また、発熱や痰を伴わない咳が続く場合は、早めに医療機関への受診を検討しましょう。